②

2022 年　　1 月　　31 日　提出

２０２１年度
研究、教育、社会・学会活動報告書

１．研　　究（本年度のみ）

ふりがな	もりさきのりかず		職　位	教授	学　位	博士 （デザイン学）
教員氏名	森崎巧一					
ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ表記	Morisaki Norikazu					
専門分野		情報デザイン、感性工学				
研究課題	テーマ	情報デザインおよび感性の研究				
	概要	人や社会に役立つデザインを思考し、情報技術（IT）を用いてそれを実現する情報デザイン教育の方法を研究する。また、WEB や画像解析等の情報技術と感性工学的研究手法を用いて、芸術作品やデザインから受ける人の感性心理（印象評価）に関する研究を行う。				
本年度 研究業績	研究費	総額：2,401,186 円 内訳：個人研究費 220,000 円 ／ 科学研究費 2,081,186 円（R2 未使用 825,522 円、R3800,000 円＋高木先生未使用分 300,000＋郭先生送金分 195,000 円-H31 報告漏れ 39,336 円） その他（みらい授業研究費）100,000 円				
	研究テーマ	個人研究： 情報デザイン、感性工学等 科研費の研究：印象評価と画像解析を用いた異文化感性理解支援ツールの開発 みらい授業研究費の研究：エンターテイメント性を取り入れた大学ブロードキャスティングに関する研究				
	経過と到達点	個人研究：学生にデザインコンペの応募作品の制作指導を行い、実際の展示活動まで参加させた（その結果、学生は優秀賞を受賞し、TV 出演を果たした）。ゼミ学生の作品展活動に関する論文を執筆し投稿した。独自のイラスト作品を制作し、作品展「七福猫展」を実施した。 科研費の研究：日本の代表的な大衆文化コンテンツである漫画やアニメを対象とした意識調査および印象語調査を昨年度実施したが、その内容を纏めた論文と、印象語収集アンケートシステムの開発に関する論文を投稿した。日本比較文化学会の全国大会・国際学術大会に研究発表者として参加した。 みらい授業研究費の研究：動画制作に関心のある学生とともに、作品展をテーマとした動画を制作し、「モリチャンネル」という番組として学生ホールと YouTube で公開した。				

②

（１） 学術論文

	論文等の名称	発行年月（西暦）	単･共著の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文	拡大する漫画・アニメ産業市場と世界に浸透する文化的価値　－日本の漫画・アニメに対する意識調査と印象語調査を通して－	2021　年10 月	共著	比較文化研究 Studies in comparative culture (145), pp. 25-37	本論文は、日本の漫画やアニメの文化的価値について考察し、そして、全国規模で行った日本の漫画やアニメについての意識調査と印象語調査の分析内容を報告したものである。
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文	情報デザインを学ぶ学生の作品展活動と地域への関わり 印象語収集 Web アンケートと印象語データベース管理サイトの構築―日本の漫画やアニメなどのポップカルチャーを対象として―	2022 年 2 月（予定） 2022 年 2 月（予定）	共著 共著	『京都経済短期大学論集』第 29 巻第 1 号 『京都経済短期大学論集』第 29 巻第 1 号	本論文は、本学の情報デザイン教育の一環として行った作品展活動とその活動を通じた地域への関わりについて述べたものである。 本論文は、日本の漫画・アニメに登場するキャラクターの印象を評価するための印象語収集サイトとそのデータベース管理サイトの開発内容について述べたものである。
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					

⑦学会での口頭発表、討論者（ディスカッサント）	漫画やアニメに対する日本人の意識と感性	2021 年 9 月	共同	2021 年度 第 1 回経営・情報学会研究報告会	本研究では、漫画やアニメに対する日本人の意識と感性について分析した内容を報告した。
	円検出ツールを活用した印象評価分析法の可能性	2021 年 9 月	共同	比較文化論 No.39 日本比較文化学会第 43 回全国大会 2021 年度国際学術大会発表抄録 於 東京未来大学. 2021. p.51	本研究では、任意の画像から「円」と判定できるものを数え上げるための「円検出ツール」と、それを用いた新たな印象評価分析法の可能性について検討した。

（２） 著書

	著書名	発行年月（西暦）	発行所等の名称	概要
⑧共著書・共訳書				
⑨単著書・単訳書				

（３） 外部研究資金獲得（競争的資金獲得）

	研究テーマ（代表研究者名）	期間年月（西暦）	研究項目の名称（文科省科研費等）	概要
⑩共同研究（研究代表）	印象評価と画像解析を用いた異文化感性理解支援ツールの開発（森崎巧一）	2019 年 4 月～2022 年 3 月	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））	本研究は、これまで行ってきた印象評価研究の手法と印象評価分析ツールの開発技術を活かし、日本のサブカルチャー・コンテンツに対する印象評価を対象に、国際文化交流に貢献可能なツールを開発する。
⑪単独研究				
⑫共同研究（分担研究）				
⑬科学研究助成事業（日本学術振興会）申請				

２．教　　育（本年度のみ）

②

		前　　　期	後　　　期
		科目名	科目名
担当科目	講義	アートとデザイン	情報デザイン 感性心理学
	演習	コンピュータミュージック	コンピュータグラフィックス
	実習		

教育内容・方法の工夫	◆ 講義科目 【アートとデザイン】 本講義は、作品を鑑賞しながらアートとデザインについて理解を深める授業である。講義だけでは内容の深い理解が難しく、そして授業も退屈に感じさせることが懸念されるため、授業内容に即した作品を制作する演習も本授業には取り入れている。本講義は本年度もオンラインで行うことになり、教科書と自作したデジタル教材（PowerPoint のスライド）、さらには教科書以外の参考書や図録、WEB 対応の書画カメラ、WEB サイトなどを活用し、多様な方法で芸術作品やデザインについて解説した。また演習課題では、学生の持っているスマートフォン、スキャナなどを活用して作品をやり取りし、書画カメラで助言を行いながら制作をサポートした。CEAS やメールも大いに活用して助言を頻繁に行った。手描き作品が提出されるため、オンライン授業であっても、学生の真剣さや理解度がよく把握できた。 【情報デザイン】 本講義は、デザインや造形表現等について理解を深める授業である。講義だけでは内容の深い理解が難しく、そして授業も退屈に感じさせることが懸念されるため、授業内容に即した作品を制作する演習も本授業には取り入れている。本講義は本年度もオンラインで行うことになり、教科書と自作したデジタル教材（PowerPoint のスライド）、さらには教科書以外の参考書や図録、WEB 対応の書画カメラ、WEB サイトなどを活用し、多様な方法でデザイン作品やデザイン手法について解説した。また演習課題では、学生の持っているスマートフォン、スキャナなどを活用して作品をやり取りし、CEAS やメールも大いに活用しながら助言を頻繁に行った。手描き作品が提出されるため、オンライン授業であっても、学生の真剣さや理解度がよく把握できた。特に後半の動画作成課題、アニメーション制作課題では、学生の手作り作品の動画や絵コンテ、レポート等を提出してもらい、作品制作の努力や熱意を詳細に把握することができた。 【感性心理学】 本講義は、感性心理学の基礎を学ぶことができる授業である。専門性の強い講義なので、感性心理についてのテキストおよび独自に作成したデジタル教材を活用し、認知心理学の基礎や感性工学の研究手法を基礎から指導している。そして、独自に開発している印象評価アンケートツールや印象分析ツールを活用しながら、授業の中で実際にデザインの感性を測る方法を体験させ、理解を深めてもらうよう指導している。本講義は本年度もオンラインで行うことになったが、上記の教材は元々オンライン対応の教育支援教材として開発していたので、コロナ禍であっても問題なく対応できた。印象調査と印象分析については、CEAS やメールを大いに活用して助言を頻繁に行った。オンライン授業であっても、学生の真剣さや理解度がよく把握でき、特に後半に行ったデザインの印象評価に関する課題では、印象調査、印象分析、スライド作成、レポート作成といった一連の感性研究の基礎を体験させたが、本講義に対する学生の努力と熱意を詳細に把握することができた。

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td>◆　演習科目
【コンピュータミュージック】
本講義は、コンピュータを使った音楽制作の基本を学ぶ授業である。教材は、独自に作成したデジタル教材を用いて授業を行った。本年度もオンラインで行うため、学生がパソコンを所有していることが前提の授業となり、しかもDTMソフト（Studio One Prime）を自分の力でインストールし設定しなければならないため、初学者には少々大変だったと思う。しかし、CEASやメールを使用して学生と頻繁にやり取りをしながら授業を行ったところ、受講生の多くが問題なくソフトを活用できるようになった。本講義の教材は、独自に作成した教材とオンライン教材を用いて指導をした。最終的には各自のイメージで作曲あるいは編曲する課題を与えたが、それぞれが面白い曲を作成することができた。

【コンピュータグラフィックス】
本講義は、コンピュータを使ったイラスト制作や写真編集等のCGデザインの基本を学ぶ授業である。本年度は対面授業で行った。教材は、市販のCGデザインのテキスト『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop』を用いていたが、初学者の中には少し難しく感じた人がいたため、より分かりやすい独自のデジタル教材を緊急で用意し、CGデザインの基礎を教えてから市販テキストに移行する措置を取った。これにより多くの学生はスムーズにCGデザインを理解できたようである。授業の中で、実際のデザインコンペに応募する課題を与えたが、これにより社会に役立つデザインを実践的に学ばせることができた。</td></tr>
<tr><td>実習科目</td></tr>
<tr><td>◆　その他（教科書・教材等の作成を含む。）
小路先生とともに、印象評価分析ツールの開発を行っているが、特に印象評価アンケートツールは、本学のオムニバス講義「経営情報学科特講」「感性心理学」など複数の科目で活用している。他大学からの依頼もあり、実際のデザイン授業に活用された。</td></tr>
</table>

（１）課外活動

①研修旅行　海外	
②研修旅行　国内	

3．社会・学会活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分　　類		活動・講演の概要
①委員長・座長	国・国際機関	
②委員長・座長	上記以外	
③委員・アドバイザー	国・国際機関	
④委員・アドバイザー	上記以外	

（2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分　　類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

（3）講演会

分　　類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	【イラスト作品展『七福猫展』】を開催 期間：2021 年 11 月 9 日～11 月 22 日、開催場所：café LINDEN 【洛西のデザインコンペ『わたしのノマド展』】制作指導及び作品展参加 けやき百選クラブの藤原篤先生と髙橋和志先生が制作指導に協力 制作指導実施日：2021 年 10 月 27 日、開催場所：本学小教室 1 （ゼミ時間に開催） 作品展示日：2021 年 11 月 6 日、開催場所：洛西けやき通りストリート 【動画『モリチャンネル』】を上映 実施日：2022 年 1 月 25 日、上映場所：学生ホール TV、YouTube（1 月 24 日～2 月 1 日限定公開） 上記の『わたしのノマド展』の取材内容を動画に盛り込んで上映。動画は森崎ゼミの学生らと共に制作。 【イラスト作品展『赤と黒と白』】開催予定 指導期間：2 月上旬 期間（学外（café LINDEN））：3 月上旬～中旬 期間（学内）： 3 月中旬～ 4 月上旬 ポスター等は今後作成・掲示予定。

4．特記事項（本年度のみ）

②

洛西のデザインコンペ『わたしのノマド展』に参加した学生１名が優秀賞に選ばれる。またその際、洛西ケーブルビジョン（RCV）より取材を受ける（森崎ゼミの学生３名がインタビューを受ける）。その内容は昨年末に洛西ケーブルビジョンのチャンネルで放映された。